

僕の言葉

何ごとにも変えがたい
おそろく

どんな言葉でも

文字でも

いいつくせない

書き表わせない

よろこびと幸せを

ひとつのかたち として

表しうることができる

としたら

それは

このできごとをおいて

ほかにあるだろうか

家族の中で

あふれる陽の光を

精一杯にそそがれた

小さなたましいが やがて

成長し

はぐくまれ

多くの人たちに見守られながら

ひとり歩きをはじめ

ひとりから二人へ

そして家族へ

あたたかな

やすらぎと平和で

新しい

くらしをあなたは

築きあげた

やがて生まれ来るであろう子供たち
かつて
あなたの母様や父様がそうであったように
あなたもまた
神よりまして
かけがえのないのち
さえ
手にする時がおとずれる
それは
世界が生まれた時から
変わることはない
あこがれと理想
永遠でしかも
終わることのない
くり返されうけつがれて行く
超越されない原理。

今、
いっさいがはじまる

二人の式典に
僕はこういたい
「君の幸せに
心から おめでとう」
この平凡なフレーズに
は、だが
決してつかい古されない
人の心に生き続ける
生命力がある
何故なら
唯一世界で
誰にも負けないつねに
新しい 僕の

たったひとつの一度の

願いだから

清廉で嘘がない

君の真実とやら変わることができない

言葉以前のまごころを

で、

感じうけ

奪い去って

もらいたい